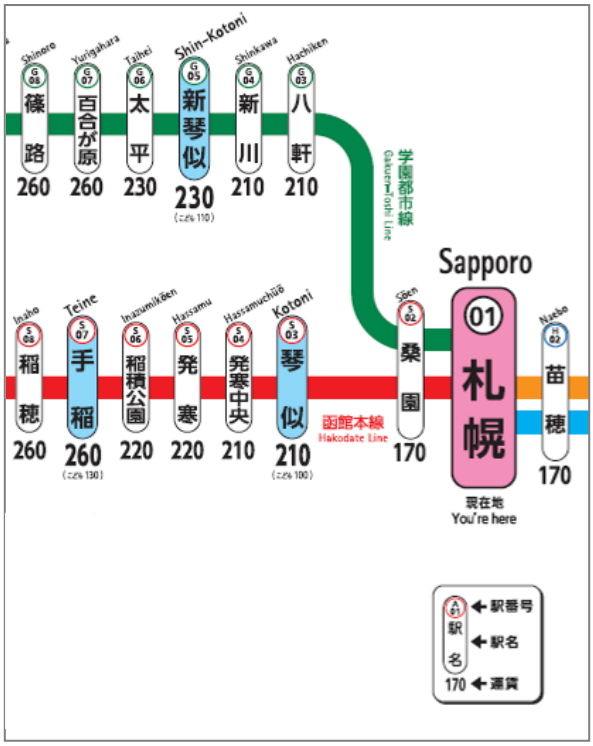
外国人旅行者にやさしい鉄道目指す

各地で「駅ナンバリング」拡大中
ＪＲ西日本では「路線記号」、ＪＲ北海道は多言語対応も計画

近年、駅でよく見かける「駅ナンバリング」。路線名をアルファベットで、駅名を２ケタの番号で表示し、外国人旅行者をはじめ、地理に不案内な人でも分かりやすく鉄道を利用してもらえるような工夫がされている。そもそもその発祥は、02 年にＦＩＦＡワールドカップの開催に合わせて横浜市営地下鉄がわが国で初めて駅番号を導入したが、当初はアルファベットの表記はなかった。04 年には、東京・大阪の地下鉄でも駅ナンバリングが採用され、名古屋市営地下鉄でも 05 年の愛知万博開催を契機に外国人旅行者の利便性を高めようと導入された。



（上）JR 北海道「近距離きっぷ運賃表」（一部抜粋）
（下）JR 札幌駅「駅名標」

ＪＲグループでは、06 年３月にＪＲ四国で初めて駅ナンバリングが採用された。ＪＲ北海道では、08 年７月の「北海道洞爺湖サミット」を契機に外国人観光客が増加することを見越して、07 年 10 月にダイヤ改正と同時に駅ナンバリングを実施。札幌駅はアルファベットの付かない「01」とし、区間ごとに記号を付けて札幌駅からの駅数を付番し、例えば函館駅は「H75」、旭川駅は「A28」など、独自の基準による駅ナンバリングを行っている。さらに 14 年４月には、運賃改定に合わせて約 460 カ所の駅の運賃表をリニューアルした。これまで駅によって違っていたデザインや表記を統一。「３」「６」「８」など遠目からは判別しにくい数字を、ユニバーサルデザインを意識した読みやすい文字に変更し、掲示物ごと異なっていた路線カラーも一本化した。さらにホームに掲示してある路線図の向きを電車の進行方向に合わせたことで、乗る列車がどの経路を通ってどこへ向かうかが一目瞭然となり、利用客にとって見やすくわかりやすい運賃表に生まれ変わったと評価されている。ＪＲ北海道は、今後主要観光駅を対象に、案内表記などを英語に加え中国語（簡体字・繁体字）と韓国語も含めた５言語化し、多言語化対応を進めたいとしている。

また、ＪＲ西日本は８月に、近畿・広島を中心とする地域の路線をアルファベット１文字で表す「路線記号」を順次導入すると発表。同社管内では路線間をまたがる直通列車が多く、ターミナル駅では行き先の異なる列車が同じホームから発車する場合もあることから、訪日外国人らに行き先を分かりやすく案内したいと導入を決めた。京都・大阪・神戸を結ぶＪＲ京都線・神戸線は「Ａ」、大阪市内を一周する大阪環状線は「Ｏ」とするなどアルファベットを付けた。また、近畿エリアでは実施していた「ラインカラー」を広島エリアでも新たに設定し、岩国への山陽線は赤色の「Ｒ」、可部線は青色の「Ｂ」など広島駅を中心に広がる５線に色名称の頭文字で路線記号が付けられる。駅に掲出している路線図についても路線記号を活用した新デザインのものに取り換えていく予定。

JR 西日本における駅の案内表示のイメージ

ＪＲグループ以外でも駅名表示が読めない訪日外国人の利便性を高めようと、各地で駅ナンバリングの採用が続いている。

14 年１月から順次導入したのは、小田急グループ。新宿駅は「ＯＨ01」、箱根湯本駅は「ＯＨ51」など、小田急線・箱根登山線などのすべての駅に路線名を表すアルファベットと各駅の番号を組み合わせて掲示した。相模鉄道でも、相鉄線全駅で 14 年２月下旬から順次採用され、「ＳＯＴＥＴＳＵ」の頭文字をとり相鉄本線の横浜なら「ＳＯ01」とした。駅名標・路線図・運賃表・各種案内パンフレット・WEB サイトの表記を順次整備していく計画だ。山陽電鉄も同４月から全駅のホームの駅名看板や車内の停車駅案内で導入。社名の「ＳＹ」と数字２ケタを組み合わせ、須磨浦公園駅であれば「ＳＹ08」と表示する。

外国人には聞き取りにくくわかりにくい駅名でも、駅ナンバリングなら確実に伝えられる。ユニバーサルデザインの観点を踏まえた「観光立国ニッポン」を盛り上げる取り組みは、20 年の東京五輪開催に向けてますます熱を帯びてきた。

問い合わせ先

事業主体①： JR 北海道 広報部
TEL①： 011-700-5732
事業主体②： JR 西日本お客様センター
TEL②： 0570-00-2486 ※営業時間 6:00～23:00（年中無休）